

足利市立毛野中学校 大 脳 千代子 訳

P 4 御両親へ

お子様がこの本を読んだあと、1ページごとに話し合っていただければさいわいです。さもなければ一緒に読みください。

P 6 12歳は一生のうちで最もよい時期の一つです。君はもうすぐ中学校に入学するころか、あるいは今、たぶん中学生かもしれません。雑草が急に大きくなるように急に大きくなった君を見て、君に会うほとんどすべての人が「まあ、大きくなったねえ。」と言うでしょう。

P 8 君の家庭における責任は重くなってくるし、教会や若い人のグループの中での役割もまたまちがいなく重くなっています。主キリストは12歳のころ神と人間にかわいがられて成長したと言われています。のことからも、キリストは彼を知るすべての人々にますます役に立つようになり、かわいがられたことがわかります。君にもこのような経験をしてもらいたいと思います。

P 10 君は成長するにつれ、むかし赤ちゃんだったことを思い出すでしょう。たいていのおとうさんやおかあさんは、君らが12歳ぐらいになるとどのようにして君らが生まれたのか、君らにもっと知ってもらいたいと思っているのです。

P 13 誕生というこの不思議な過程をよく知らずに、くすくす笑ったり下卑たことを言ったり、ばかげた話をひそひそしたりする子どもたちや、大人たちさえいます。生命の始まりは最もたいせつで、うっとりするような事柄の一つです。私たちは、神が新しい生命をつくり、この世に送り出したということを知るべきです。神が新しい生命をつくるというすばらしいこの計画は当然くすくす笑いなどではなく、驚きと喜びをひきおこすのです。

P 14 君は赤ちゃんになる前はどこにいたのでしょうか？ どのようにして君はこの世に生まれてきたのでしょうか？ たぶん君は答えを知っていることでしょうね。そうです。君はおかあさんのおなかの中で9カ月間静かにそしてゆっくりと大きくなってきたのです。君は（その時は暖かい洋服を着ていたわけではないのです）おなかの中にいて、寒さや風から守られていたのです。そしてこの9カ月というもの、君のおとうさんとおかあさんは、君が生まれてくる日のことをあれこれと考えていたのです。そしてそれからついにすばらしき日……君の誕生日がきたのです。

P 15 液体のはいったふくろが赤ちゃんを包んでいる。赤ちゃんは成長するにつれ、この液体の中で浮動する。そして激しい振動や衝突から守られている。おかあさんのおなかの中にいる間、赤ちゃんは口で物を食べるわけでもないし、鼻で呼吸しているわけでもない。しかし特別な血管（へその緒）がおかあさんの血液から栄養と酸素を赤ちゃんに与えるために、二人をむすびつけている。

P 17 君は誕生日のことは覚えていないはずですね、君はたった7～8ポンド(3200～3600g)

の目方でとても小さかったです。このことはおかあさんに聞いてごらんなさい。覚えていませんから。君はその日にどんなことがおこったかや、あるいは誕生そのものについて何も覚えていないので詳しいことをすこし教えましょう。君が今まさに生まれようとしたその日、おかあさんの体はそのことを知り、君をしっかりと両腕に抱ける体外へと君を押し出し始めます。おなかのうしろにある子宮の強い筋肉が壁という体の中にある管をとおって少しづつ君を押し出す仕事を始めるのです。そして最後に君がこの世に生まれてきたのです。医者や看護婦は君に会うのを待っていました。医者は君が呼吸しているのを確かめるために君のうぶ声を聞いたのです。それから看護婦は君をうぶ湯に入れて始めておかあさんに会わせたのです。おかあさんにとって何とうれしい瞬間でしょう！君が生まれるまでの時間は恐らくおかあさんにとっては気持ちのいい時間ではなかったことでしょう。はやく生まれる赤ちゃんもいるし、何時間もかかるて生まれる赤ちゃんもいます。それにたとえ君がひじょうに小さかったにしても、君が通ってきた道よりは、はるかに大きかったのですから。君は出てくる時に、とおり道をじゃましている骨盤をむりにひきはなしながら壁を押したのです。骨がゆっくりと離れ、君のために道が開くとおかあさんは痛み…ふつうこれは陣痛と呼ばれています。…を感じ、これを和らげるために薬が与えられたり、注射をされたりしたのです。そしてそのあとは、君が生まれたという喜びでこの痛みを忘れてしまったのです。それから、最後に看護婦が君をおとうさんに会わせたのです。おそらくおとうさんは別の部屋で待っていたのでしょう。たいていの医者が赤ちゃんが生まれる時、おとうさんが近くにいるとたいへんじゅまになると考えています。君はとても小さくて、たぶん赤い色でほんとうにへんてこだったのですが、おとうさんはへんてこだなんて思いませんでした。おとうさんは君のことを誇りに思うあまり、みんなに自慢して歩きまわったのです。おとうさんがうれしかったのはなぜだと思いますか。君は小さすぎておとうさんとはいっしょに遊べないので、君ができることといえば、食べることと、寝ることと、泣くことだけなのに。でも君はおとうさんのものだから、おとうさんは誇りに思ったし、幸せだったのです。

P20 もしおとうさんの助けがなかったならば君は子宮と呼ばれる小さな場所で赤ちゃんにはならなかったでしょう。君はおかあさんの卵巣の中で1つの小さい卵子として出発したのです。でも君がそうであったようにその卵子を生きものにさせ、大きくさせてきた君のおとうさんの役割なしでは成長し始めたのです。つまりおとうさんの助けがもしなかったならばその卵子は死んでしまっていたのです。おとうさんはどんな助けをするのでしょうか？彼は体の中にある精子と呼ばれるたくさんの小さなたねをおかあさんの体の中に入れます。（精子は顕微鏡で見なければ見えません）そのうちの1つの精子がおかあさんのやわらかい小さな卵子を見つけて入り込み、卵子を大きくさせ始めるのです。精子と卵子が結合すると卵子はその時から受精卵と呼ばれるのです。おとうさんの精子で栄養を与えられなかった卵子は赤ちゃんにはならないのです。だからおとうさんがどんなに重要な役割りを果たすか気がつくでしょう。だから赤ちゃんは生まれると半分はおとうさんのものであり、半分はおかあさんのものなのです。等しく二人のものなのです。

- P21 この卵子の図は拡大してある。実際の1個の卵子はひじょうに小さい一つぶの砂くらいの大きさである。精子はこのような形をしている。おとうさんは二種類の精子を持っている。一つは女の子をつくるもので、もう一つは男の子をつくるものである。でもどちらの精子を卵子と結合させるかを自分の意志で決めることはできないのである。おとうさんの精子がおかあさんの卵子と結合するので、赤ちゃんはおとうさんとおかあさんから両方の特色を受け継ぐのである。精子と卵子をとおして髪の毛、目、膚の色、鼻、耳の形、その他容貌が親から子へと受けつがれていくのである。
- P22 どのようにして精子をおとうさんの体からおかあさんの体の中に送るのでしょうか。精子は睾丸（42ページの図を見てください）で作られるのです。このあまりにも小さいおたまじゃくしのような精子は陰茎をとおして外に出ます。陰茎はふつうやわらかくて、まっすぐになってしまいませんが、硬く、まっすぐになった時におかあさんの膣にはいり、精子がおかあさんの体の中に流れ込むのです。おとうさんとおかあさんがこのようにして結合する時は、お互いに愛を表現しているのです。この性的な行為を性交といい、二人とも深い喜びを与え合います。これは神が考えた人間をつくるというすばらしい方法であります。冗談を言ったり、まちがって
- P23 考えたりして神のすばらしき計画を台なしにしないように注意しなければいけません。おとうさんの精子は同じように陰茎から出る尿とまぎりはしないかと不思議に思っているかもしれませんね。でも神は精子が出ている時は尿は全く出ないようにしゃ断弁をおつくりになったのです。精子が陰茎から出ると、おかあさんの膣にはいり子宮を通って卵巣に通じている輸卵管にいきます。そこで1個の精子が卵子と結合するのです。そしてこの受精卵は子宮にいき、子宮の壁に着床して9カ月間そこで大きくなっていくのです。9カ月とはずい分長いですね。でも卵子も精子もとても小さいので目、耳、鼻、腕、脚、おなか、膚、骨、その他全部もった赤ちゃんになるには長くかかるのです。だからこういうことを考えれば9カ月といっても実際はとても短いのです。
- P26 反対側のページの上の図は、卵子と精子の結合を示す。次の図は精子の侵入でもとの卵子が半分に分裂したものである。半分に分かれたそれぞれがまた分裂するのである。この分裂したものは細胞とよばれ、赤ちゃんはこのようにして大きくなり始める事を示している。
- P29 一つの細胞が大きくなり、形が変化して赤ちゃんになるのではなく、細胞が1兆くらいになるまで分裂して赤ちゃんになるのである。一番下の図では細胞が赤ちゃんの形をとり始めている。卵子と精子が結合してから2カ月たつと赤ちゃんはおよそ1インチになり、この図のような形になっている。
- P31 3カ月までには赤ちゃんは3~4インチ（8cm~10cm）になり、5カ月までには1フィート（30cm）になり、体重も1ポンド（450g）になる。そしてこのころはもうおかあさんは小さな脚が蹴るのを感じるかもしれない。7カ月になると2.5ポンド（1134g）になる。9カ月の終わりにはもう生まれる準備をしており、体重は6~10ポンド（2700~4500g）、身長は17~22インチ（43~56cm）になる。もとは針の頭より小さかった卵子と精子は、強い、動く、かわいらしい人間の赤ちゃんに成長したのである。

P33 神は人間をおつくりになる時、精子と卵子の結合というこのすばらしい方法を考え出したのです。神のみが知るこの不思議な方法で受精卵は赤ちゃんに成長するのです。神は何と偉大なんでしょう！

P35 男の子や男の人は胸が平らですが、女人は二つのまるいやわらかい乳房をもっています。乳首をとおして乳房からおっぱいが出てきます。赤ちゃんが乳首を吸うとおっぱいが出はじめます。おかあさんのおっぱいはちょうどいい温度であり、ちょうどよい栄養配合になっています。君はおそらくおかあさんが弟や妹におっぱいをくれているのを見たことがあるでしょう。

P37 犬や猫のおかあさんがおなかについているたくさんの中から赤ちゃんにおっぱいをやっているのを見たことがあるでしょう。

P38 子どもはそれぞれ発達の段階が違います。そして若い体に成熟の変化がおこるきまつた年齢はないのです。しかし一般的には1.2.3歳ごろ、男子はこれより少しおくれて変化が始まります。

P41 最初の変化の一つとして男の子の陰茎、女の子の膣口のまわりに毛がはえてきます。女の子の胸は大きくなり始め、男の子の声は低くなっています。これらは成長しているしであり、体がおとなとしての責任を持とうと準備しているのです。

P42 精子をつくりためておく睾丸は陰のうとよばれるふくろでおおわれている。陰のうはまたについており、陰茎は睾丸の前にある。ふつう男の子が生まれて数日しかたっていないころ、陰茎の先をとりまいていたひだのついた皮ふを取り除くひじょうに小さい手術が行われる。これは割礼といわれ、しばしば聖書に出てくる。

男性性器の図

P43 女の子は女性の性器である2つの卵巢と子宮と膣をもつ。男の子の性器は睾丸と陰茎である。男性と女性の区別は主に性器のちがいによってつけます。図をみればおそらく神が男の子と女の子をちがうふうにおつくりになった様子がよりよくわかるでしょう。これらの性器が機能を働かし始めると、男の子は寝ている間によく精子が出ることがあります。そしてこういうことがおきた時には女の子のふしぎな、わくわくするような夢をみることもあります。このようにして精子がでることを夢精といいます。しめたゼリー状の物質といっしょに精子が陰茎から流れでて、ふれている衣類や寝具をぬらしたり、色のついたしみを作ったりします。この経験はごく普通であり、睾丸と陰茎がほどよく発達していることを示しているのです。男の子の体は失われた分にとりかわって、もっとたくさんの精子を作ります。

女性性器の図

P44 女性の卵子は卵巢で作られる。卵子は輸卵管をとおって子宮にいく。子宮で赤ちゃんが大きくなるのである。赤ちゃんがまさに生まれようとする時、おかあさんのこの子宮の筋肉が収縮し、膣をとおして赤ちゃんを押し出すのである。

P45 女の子の性器は成熟し始めるとまず卵巢が卵子をつくり始める。精子と受精した時、卵子は赤ちゃんになります。1個の卵子が毎月出てくるのです。卵子が卵巢を出ると、やわらかいビロードのようなものが子宮の内壁にできてきます。このようにして子宮は受精卵に栄養を与え

る準備をします。しかし受精しなかった卵子は子宮に到着するところわれるので。それで新しくできた子宮の内膜は必要なくなり、こなごなになってはがれ落ちるのです。メンスと呼ばれている陰から毎月の出血はこのようにしておこるので。そしてこれは3日から7日続くのです。必要でないものを排出するように体ができているのです。この期間、女の子ははいているものをよござなために衛生的なナプキンをあてておきます。女の子の小便是管をとおって陰のちょっと前にある穴から排出されます。陰口からは赤ちゃんが出てくるのです。陰の穴は数個のひだが重なっていて保護されています。

P49 いつの日か君は、君の夫や妻になる男の子や女の子を愛するようになるでしょう。そしてこの愛という贈りものは神がくださるので。今はそういうことはずっと先のことだと思えるかも知れないし、おかしいとさえ思えるかもしれません、大きくなった時にはそんなふうには思わないでしょう。もし、君においさんかおねえさんがいれば私の言っていることがおそらくわかると思います。神は私たちをこのようにおつくりになったのですから。そしてこれは正しいことだし、好ましいことです。でもその時期に気をつけねばなりません。10代も後半になると異性を愛ぶしたりキスしたりするのが楽しいとわかってきます。しかし神は愛ぶやキスというおくりものをもとは結婚した二人に与えたのです。神は君がこのおくりものをまちがって使うことはないと信じておられるのです。

P50 危険とは何だかわかりますか。危険とは神のおくりものを結婚するまで待たずに使ってしまう人もいるということです。そういう人たちはお互いに愛ぶ（ふつうベッティングとよばれている）すればするほど、性器を使いたくなる（別の言い方で言えば性交をしたくなるということです）もので、中にはそうする人もいます。そんなことをしたら神にそむくことになり、不必要的悲しみが生じることになります。性交は体だけでなく、心にも悪い影響を与えます。そういう関係が結婚してもたれている時はひょうな喜びと満足が得られます。でも結婚していないでそういうことになれば、多くの心痛や悩みが生じます。というのは神がおよろこびになつていなかからです。神にそむいて性交すると重病になったり、時には若死にしたりすることもあります。結婚していない二人が性交した結果生まれた赤ちゃんは、たいへん望まれて生まれたのではないのです。これらの中にはとても欲しがっている人にもらわれていく赤ちゃんもいます。でもそうでない赤ちゃんにとっては、この世は生きていくのにとても難しいところであるにすぎないので。

P53 結婚していない人が決して性交をしてはいけない最も重要な理由は、これが罪であるからです。この罪名は私通あるいはかん通です。そしてこの罪は他の罪がどんなに悪いといっても何にもまして悪いのです。しん言の中で神は「かん通をおかした人間は全くのバカ者である」というのは自分自身の心までもだめにしてしまっているからだ」と言っておられます。男の子も女の子も愛ぶやキスを残しておき、男の子なら女の子に手を出さない。女の子なら男の子の手出しを許さないでいられるように神にお願いすれば、これから先、たいした問題もおこさずに何年も楽しく暮らすことができるでしょう。“お互いに手を触れないこと”と“キリストが君に望んでいることをいつも理解しようとすること”が二つの守るべき事柄でありましょう。

P55 神は身代わりとして私たちをおつくりになったのです。わたしたちは神のものです。神は十字架の上で死んだ時、犠牲を払ってわたしたちを獲得されたのです。だから正しい考えをもつということがなぜとてもたいせつであるのかということがわかったでしょう。十代で性について正しい考え方を持ち、性の喜びを結婚するまで待てば、君のその忍耐と信念は報われるあります。『まいた種は刈り取る』というは人生においてはいくつの時でもあてはまる神の教えの一つなのですが、君くらいのころにも役立つ教えなのです。

P58 神が君をおつくりになったことは何とふしきですばらしいことなんだろうと思って、君がますます神を愛するようになればいいと思います。神に心と同様、体も任せなさい。

P59 君が神と人間のちょう愛を受け、正しい判断と常識を持った人だという評判を得たければ、神を心から信頼しなさい。自分自身など決して信じてはいけません。君が何かをする時はすべて神を第一に考えなさい。そうすれば神は君を導いてくれ、君の努力に対し、成功の栄誉を授けてくれるでしょう。得意になったり、自分の知恵を確実なものであると思ってはいけません。そのかわりに神を信頼し、敬いなさい。そして悪に背を向けなさい。君がそうする時、以前にもまして健康と活力が与えられるでしょう。